

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2019年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2018年は早期にブドウが熟したヌーヴォーにとっての当たり年。夏は猛暑と日照りが続いたが、結果的には品質にも収量にも恵まれたミラクルな年だった。

2019年のボジョレーは春の遅霜など涼しい気候から始まり、夏に入ると反対に記録的な猛暑が続いている。まるでジェットコースターのような気温のうねりの中、果たして今年はどのようなミレジムになるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

近年ヌーヴォーの需要が増えたこともあり、今年初めにボジョレー南の村 Saint-Étienne-des-Oullières (サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエール) に樹齢平均 40 年のブドウ畑 1ha を新たに手に入れた。今年はランシエ、ランティニエ以外にこのサン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールのブドウがヌーヴォーに加わる予定だ。

今年の開花は、昨年よりも約 1 週間遅くランシエが 5 月 31 日、ランティニエが 6 月 1 日に始まり 4 日間ほどで終わった。(サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールは 5 月 26 日) 今年はランシエの畑が、標高が低く空気が停滞しやすいこともあり、5 月初めに一部霜の被害に遭った。その後すぐは気温が上がらず、ブドウの成長は前年よりも 2 週間遅れていた。6 月 7 日には瞬間風速 100m/s を超える強風が吹き荒れ、ランシエ、ランティニエの畑は一部新梢が折れる被害に遭ったが、サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑は誘引していたこともあって被害はほとんどなかった。春にほとんど雨が降らなかった影響で、畑は全体的に水不足だったが、6 月 13 日、14 日、15 日と計 27 mm のまとまった雨が降り、その後連日のように猛暑が続いたことで、ブドウの成長スピードに一気に勢いが増した。病気は今のところなし。収穫日は 9 月 3 日前後を予定しているが、現在も気温は 40℃ 越えの記録的な暑さが続いていて、このまま暑い夏が続くと、2003 年のようなキャラクターのワインが出来上がるかもしれない。



病気無く、成長を続けている



ランシエの畑

◇ ジャン・フォワヤール

今年の開花は 6 月 6 日に始まった。早熟だった昨年よりも 10 日ほど遅い開花だ。ブドウの成長サイクルは、5 月 6 日に遅霜が降りたため 10 日から 2 週間ほど遅れていたが、6 月後半から続く猛暑によって今はその遅れは十分リカバーされている。6 月 7 日にハリケーン並みの強い北風が断続的に吹き荒れたが、幸い枝が勢いよく伸びる前だったので被害は最小限に抑えられた。現在 40℃ 超えの記録的な猛暑が毎日続いている。6 月 13 日から 3 日間計 40 mm 前後のまとまった雨が降ったおかげで、今のところ水不足の問題はなく、ブドウも例年並みの収量 45hl/ha が十分とれるだけの房が生っているが、このままこの異常とも言える猛暑が続けば深刻な水不足に陥る可能性もあり、まだまだ予断を許さない状況だ。ちなみに、今年の収穫は 9 月 15 日前後を考えている。

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

今年のブドウ開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑で6月15日頃始まり1週間ほどで終わった。被害はほとんどなかったが、5月初めに襲った遅霜の影響やその後の気温の涼しさもあって、開花は昨年よりも3週間遅かった。また冬と春はほとんど雨が降らず水不足が心配されたが、幸いにも6月の初めに30mmくらいのしっかりとまとまった雨が降り、さらに、6月の下旬から気温が上がり連日のように快晴が続いていることにより、ブドウは一気に成長の遅れを取り戻しつつある。ブドウの病気も、今のところ天気が乾燥していることもありほとんど見られない。ただ、このところ毎日のように気温が40度を超える記録的な猛暑に見舞われ、これがさらに続くと雹や日照り、ブドウ焼けのリスクが出てきそうなのがちょっと心配だ。今年の収穫日は今のところ昨年と同じ9月15日前後で考えている。



標高が高く斜度のあるマルシャン村の畑



表土には花崗岩が散在しており白っぽい
地中は沖積土と砂混じり土壌

2019年はこのまま行くと「2003年のようなボジョレー・ヌーヴォーの世紀のミレジムになる」と巷では期待されている！その一方で、6月に40℃を超える暑さを記録したことでTVでは連日のように地球温暖化による異常気象の話題を取り上げている。果たして、この猛暑のリスクはいつまで続くのか！？次のレポートもお楽しみに！

(2019年6月18日訪問&6月30日メールレポートより)